

## 大変な時代となりました

美濃市教育委員会 教育委員 中島 正憲

政府の子ども家庭庁が発足して学校教育の在り方改革が急速に進みだした感があります。

学校教育の課題は多くあります。ご存知のように、不登校・いじめ問題等解決の糸口を模索しながら働き方改革を進める学校や教職員の皆様は大変なご苦勞とご努力があると感じています。

そんな大変さを保護者や地域の方々は知っているのでしょうか？開放された学校を自分の目で見て確かめた上で、評価して理解する事が大切であると思っています。

噂話で学校や教師の皆さんを決めつけていないでしょうか？私たち教育委員は、学校批判でなく、学校や教師の皆さんが努力されている姿を皆さんに伝えることも役割だと考えています。

義務教育の9年間は長そうで過ぎてしまうと短く感じます。9年間は、子どもたちにとって保護者にとっても、人間形成の大切な期間です。何事もなく過ぎればよいと思わずに、自分の子どもの将来について関心を寄せてほしいものです。教育のプロフェッショナルである教師の皆さんと交流し話し合いながら、子どもの成長を見守っていく保護者の皆さんの為に活動することも教育委員の役割と考えます。

教育は大人の為ではなく、子どもの為の教育でなければなりません。子ども主役で学校教育を考えて、大人の都合で子どもたちに負担を負わせるような教育であってはならないはずで、教育委員は、子どもが成人となり独り立ちできる人間になる教育であることを見守り、持続的かつ向上する教育の姿を求めることが必要な役割であると考えています。

## 親としての覚悟

安八町教育委員会 教育委員 西山 直広

私には三人の娘がいます。三女は今大学生です。長女と二女はすでに大学を卒業していますが世間でいうところのニートというものをしております。長女は大学院を希望していましたが叶えられずそのまま卒業して今に至ります。二女は特にやりたいという職業もなく就職活動をせずに卒業をしました。親としては普通に就職をして社会に出ていくものだとはばかり思っていたので、正直、苛立ちを感じ強く当たる時もありました。しかし、彼女達を見ていると、就職していない事に対しての負い目も不安も無さそうで、毎日明るく過ごしているのです。それを見ながら夫婦で色々考えました。そのうちに、この子達はまだ社会に出る時ではないんじゃないか、今は「人生100年時代」といわれるようになったので、自分のやりたい事をゆっくり探せばいいんじゃないかと思うようになりました。そして、自分達の子どもを信じようと思えるようになりました。今は色々考える機会を与えてくれ、「子どものために考えよう」という私の教育委員としての根幹を作ってくれた子ども達に感謝です。しかし一つ気掛かりなのは三女です。彼女も姉達を見習って(?) 同じ道に行くのではないかという事です。しかし、もしそうなったとしても親としての覚悟を持って全肯定でいきたいと思います。